

夏の収蔵品展

8月12日(水)～10月11日(日)

特集 富嶽十景 ～郷土作家が描く富士山

所蔵品の中から富士山の絵 10 点を厳選してご紹介します。当館は桜島コレクションを 80 点以上所蔵し、常に 2、3 点を展示していますが、同じ活火山でありながら、まったく異なる表情を見せる富士の美を、桜島の絵画と見比べてお楽しみください。

また、今年は葛飾北斎の生誕 260 年を迎え、代表作『富嶽三十六景』の制作に着手してから 190 年目となります。橋口五葉の復刻による『凱風快晴』も特別展示します。



木村探元《富嶽雲烟之図》県指定有形文化財

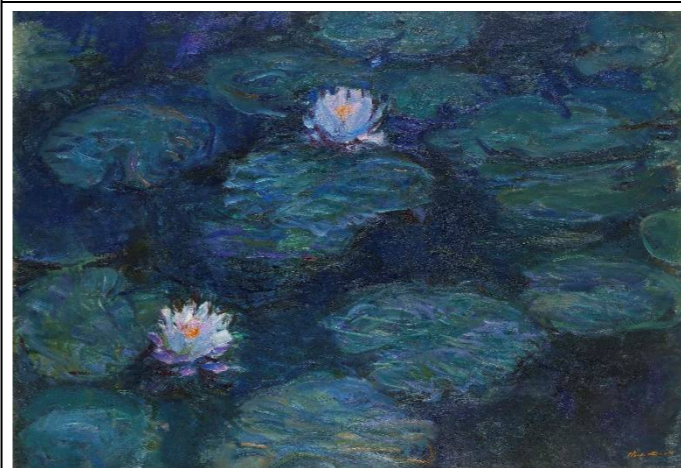
冠雪した山頂を、雲の間からのぞかせる富士山。縦 128cm × 横 237cm の大きな紙に、威風堂々とした山容が、墨の濃淡のみでダイナミックに表現されています。

作者は、江戸時代中期に現在の平之町で生まれた薩摩藩の絵師、木村探元です。探元は、狩野派と呼ばれる伝統的な画派に属し、鹿児島城本丸造営の際に城内の襖や衝立の絵を描くなど、優れた技量で薩摩画壇をけん引しました。

本作は、雲の陰影表現が空間に広がりを感じさせ、当時の狩野派の富士山としては異例な写実性を持つと言われています。探元は 24 歳から約 2 年間、江戸に留学し狩野探信(守政)に学んでいます。江戸へ向かう道中に見たであろう本物の富士山から得た感動が、50 年後の本作に生かされているかもしれません。



●主な作品● 西洋：油彩画



クロード・モネ《睡蓮》1897～98年

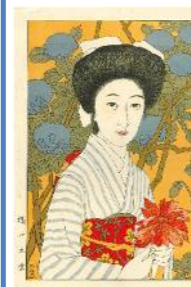
貸出していた『睡蓮』が返ってきました。展示は8/12から

乙女のモダンデザイン

～大正イマジユリィの世界～

10月2日(金)→11月15日(日)

大衆文化が花開き印刷技術が進歩した大正時代。モダンでユニーク、お洒落で可愛いらしい印刷物の図像(イマジユリィ)の世界をお楽しみください!



鹿児島市立美術館

市美だより 2020.夏号

孤独の中でパリの魅力を表現した画家

モーリス・ユトリロ (1883～1955)



「ブリ・シュール・マルヌの教会」 1919年頃

今から 100 年前、「エコール・ド・パリ」と呼ばれる異国人芸術家たちがパリで活躍していました。ユトリロはパリに生まれ、モンマルトルでエコール・ド・パリの画家として活動しました。孤独な幼少期を過ごしたユトリロは、社会への適応力がなくアルコール依存症になりました。しかし、治療のために絵を描き始め、退院後も独学で絵を描き、1909～12 年頃の「白の時代」と呼ばれる独特の白色を多用した時期には、一躍画壇でもてはやされました。

本作は、ユトリロの評価が急速に高まった頃のもので、パリ郊外のブリ・シュール・マルヌにある教会が描かれています。全体的に灰色がかり寂しい印象を受けますが、彼の不安定な精神状態を通して眺めた街並みは、寂しいながらも人々の体温や息吹を感じることができます。生涯愛情に飢えていたユトリロは、教会に対して深い敬虔の気持ちを抱いていました。この作品は、教会に向けられた愛情の深さを表現しているようです。

※特別企画展「キスリング展～エコール・ド・パリの偉大なる画家～」(～9/6)に合わせ、所蔵品展では、本作を含めエコール・ド・パリの作品も展示しています。